

兵庫県立考古博物館

特別展「江戸時代の兵庫津」

開催期間：平成28年10月8日（土）～平成28年12月4日（日）



【企画展の内容・目的】

- 考古資料や兵庫津の実態を伝える資料によって、江戸時代の交易や海外交流の拠点となった兵庫津と海との深い関係性や歴史を立体的に復元・紹介した。
- 国際貿易港あるいは瀬戸内海の主要港として重要な役割を果たした兵庫津の歴史を学び、古代から現在に至るまで海や船舶による物流が私たちの生活を支えてきたことを再認識する機会とした。
- 専門的な講演や展示解説だけでなく、落語やクイズラリー、紙芝居など、親子で参加したり、誰でも気軽に幅広い年代が参加しやすい関連事業を実施して、日常生活では気付かない視点から海や船についての知識を親子で共有したり、広く海洋への理解を深める機会とした。
- テーマ展示（常設展）と特別展を連携させることで、海や船・港について、古代・中世・近世と時系列的に、日本人が海との関係性を段階的に深めていった歴史を再発見する機会とした。

1. 企画展示の内容

■開催期間：平成28年10月8日（土）～平成28年12月4日（日）

■開催場所：兵庫県立考古博物館 特別展示室、テーマ展示室

■入場者数：10,303人



兵庫県立考古博物館 外観



特別展会名表示バナー



特別展会名表示立看板



特別展会名表示バナー

展示を展開するときは、常にストーリー性をもたせることが重要である。ただ単にトピック的なものを展示するだけではなく、まず、主要な内容に入る前に、その前提から展示と解説を交えて始める。それがプロローグであり、主要テーマである江戸時代の兵庫津について、4つのテーマで構成して、港町としての特徴を主眼として展示を展開させた。その中でもとくに「IV 兵庫津の諸相一人・モノ・交流一」において交易や海外交流という点について重点を置いて展示を構成した。兵庫津に暮らした商人や海運を基本とする物資の流通、それらを支えた技術などを重層的に展示展開することにより、海や船に対する理解や関心を深めてもらうことができたと考えられる。具体的には、船による「運賃積み」から「買い積み」へと商業形態が変わってくるなかで、兵庫津でも変化がみられ、北前船のような長距離海運での船の帆が工楽松右衛門による「松右衛門帆」の出現することにより、近世日本の海運が飛躍的な発展を見せたことを紹介し、改めて兵庫津の商人・技術者の役割も含めて、過去から現在に共通する「暮らしにおける海運の重要性」について理解を深めてもらえたと思われる。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



特別展示室会名表示ボード



特別展示室入口会名表示看板

本展では、近年の「兵庫津」の発掘調査の成果を紹介するコーナーとして、「Ⅲ 兵庫津に暮らした人々」において集約展示した。兵庫津は港町としてだけではなく、宿場町としての性格をあわせもち、絵図などとあわせて展示することで、町のあり方を紹介した。また、造船に関する資料や船の部材を展示することで、兵庫津というたいへん狭い範囲でありながら、それぞれの地域によって特徴があることを紹介し、現在のそれぞれの地域と比較することで、より身近な兵庫津の在り方を学んでいただけたと考える。また、兵庫津には多くの漁師も暮らしており、漁業にまつわる考古資料や版本を展示した。さらに、兵庫津で発掘され人々が実際に使った陶磁器を展示することによって、それらの流通にも船が利用されたのであり、これらをとおして、海や船と生業、流通との関わりを学んでいただけたと考えている。



特別展会場導線看板



本展は、江戸時代という時期にほぼ特化した内容になっている。しかし、当館のテーマ展示（常設展）には、古墳時代の船（準構造船）を復元展示し、毎週日曜日に乗船体験できるようにしており、また古代末の「大輪田泊」（兵庫津の前身）から中世の港町に関する展示をおこなっている。そこで、本展と常設展示と関連付けた展示構成をすることで、船の構造や港湾に関する知識を通史的に学べるようにした。特に古代船の乗船体験では、子供たちへ問いかけをして船の説明をおこなうことにより、船についての興味・関心を高めることができたと思われる。

また海外との流通や交流についても幅広い知見を得ることができるようにした。これらによって、日中韓との交流、交易について、海・船をとおして各時代のあり方を学んでいただけたと考える。



本展は、近世初頭から明治20年代までを扱ったが、テーマ展示と関連付けることで、古代から近代までを扱うことになった。さらに本展は「神戸開港150年」という節目を迎えることも念頭に入れた展示としており、神戸港の今日的なイメージを膨らませるために、「特別陳列―世界を巡る豪華客船―」のコーナーを設けた。これにより兵庫・神戸を古代から現代までをとおして展示展開した。展示導線についても通史的に観覧できるようにサイン看板を設置した。また、客船模型はたいへん精巧なものであり、人目につきやすく、特に子供たちに対して船への興味・関心を高める効果があったと思われる。

これらの展示と導線表示によって、観覧者は時代ごとの海や船を介した交流や交易、あるいは船の歴史や構造をわかりやすく理解していただけたと考える。

【来館者の声】

- 展示の企画内容・構成順番（展示の流れ）がよい。
- 展示がわかりやすかった。
- 特別展とテーマ展示（常設展）とが連動していることがよかった。
- 海と人間の生活の関わりの重要性を知ることができた。
- 兵庫津のことを知りたいと思っていたので、大変参考になった。今後も「海」について興味を持ち続けたい。
- この特別展によって、文化・モノなどが海をとおしてつながっていることを感じた。
- 近年の発掘調査の成果がよくわかるところがよかった。
- 日中韓の交流史に興味があり、どれも時代ごとの展示に関わりがあり、よかった。

2. 関連事業の内容

■①特別展講演会

- 【開催日時】 ①-1 平成28年10月15日(土) 13:30～15:00
-2 平成28年10月22日(土) 13:30～15:00
-3 平成28年11月19日(土) 13:30～15:00
-4 平成28年11月26日(土) 13:30～15:00

【開催場所】 兵庫県立考古博物館 講堂

【参加者数】 1: 138人 2: 101人 3: 73人 4: 101人 合計413人

【実施内容・目的】

- 兵庫津における海運や人々のくらしや生業など幅広いジャンルで別々の関連テーマによって4人の専門家が講演し、海や船の歴史を深く知り、船が全国経済の発展に寄与したことを学ぶことによって、今日の物流のあり方などを考える機会とする。
- 講師名と演題
 - 1 高久智広 (神戸市立博物館事業係長・学芸員) 江戸時代の兵庫津
 - 2 内藤俊哉 (神戸市教育委員会文化財課学芸員) 発掘調査で見えてきた港町・兵庫津
 - 3 大国正美 (神戸深江生活文化史料館長) 城下町から港町へー変わる近世兵庫津とその周辺
 - 4 松木 哲 (神戸商船大学名誉教授) 北前船の盛衰



講堂の全景

講師紹介の様子

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



全国の特産品などの物流に海運が大きな役割を果たしたことを知り、船が全国経済の発展に寄与したことを学ぶことによって、今日の物流のあり方を考える機会とすることを目的に、兵庫津をベースに多角的かつ広範な分野から演者を選択した。

講演内容は、基本的に展示内容とリンクしていることはもちろんであるが、展示では語り尽くせない、あるいは展示できなかった資・史料などが紹介されることにより、聴講者にとって海や船の歴史を深く知ることができたと考えられる。

【来館者の声】

- 江戸時代には港町兵庫津と造船所との関係があり、現在につながっていることがわかった。
- 港町という場所の属性として、人々の交流に広がりがあることに気付いた。
- 産業発展の基として、海上交通による物流が大きな役割を果たすことがよくわかった。
- 交易の拠点としての港町が、都市発展を遂げていくプロセスが、講演によってよくわかり、兵庫津は現在の港町神戸へとつながっていることがわかった。
- 海は、世界につながっていることを実感した。
- 海と港湾、漁業から工業・産業化への変遷が、各時代のあり方に深く影響していることがわかり興味を持った。
- 海と人のつながりの深さを知ることができた。
- 海は世界とつながり、海を守っていくことが大事であることがわかった。

■②落語会—兵庫津や船にゆかりの落語を楽しむ—

【開催日時】平成28年11月13日（日）

13:30～15:00

【開催場所】兵庫県立考古博物館 講堂

【参加者数】63人

【実施内容・目的】

- 兵庫津ゆかりの「兵庫船」という落語を落語家が噺す。その前座として兵庫津の知識を聴衆に知ってもらうために、担当学芸員が特別展の展示紹介をおこなう。船にゆかりの「三十石夢の通り路」の二席を披露。
- 落語と展覧会とをとおして、過去・現在・未来に渡って、海や船が我々の生活と深い関わりがあることを知る機会とする。



開催場所の全景の様子



特別展内容紹介の様子





桂ひろば



桂まん我

落語をただ聴くだけではなく、落語の内容と展覧会との関係について、特に海や船への興味関心を持たせるために、担当学芸員によって特別展内容の要点を示し、海や船を介して地域の発展や現在のあり方につながっていることを説明した。

落語という文芸・伝統芸能において、海や船が登場することを再認識させ、旅における身近な交通手段であることを再認識する機会となったと考えられる。

【来館者の声】

- 海の歴史・文化を感じた。
- 水（海や川）と人とは切っても切れないものであり、大切にしていかなばと思う。
- 海と人の生活との関係などを学んだ。
- 川や海を題材にした落語から、自然との共生のすばらしさを感じた。
- 特別展のテーマから落語の演目を選んでもらって、たいへんよかった。
- 落語をとおして海の偉大さを感じ、海を大切にしようと思った。

■③ペーパークラフトで「カーフェリーをつくろう！」

【開催日時】 1 平成28年10月29日（土）

13:30～16:00

2 平成28年11月26日（土）

13:30～16:00

【開催場所】 兵庫県立考古博物館 体験学習室3

【参加者数】 1：13人 2：8人 合計21人

【実施内容・目的】

- ペーパークラフトを親子で楽しみながら、古代から現代までの船の歴史を学ぶ。
- 親子で参加することで、海や船についての知識を共有できるようにし、海洋教育への動機付けとし、実際の船に対する興味関心を持つ機会とする。





ペーパークラフトでただ作るだけではなく、世界的な視点で人類と海や船との関わりや船の歴史を知ることができるように解説を交えることにより、海や船に関する印象付けをおこなった。これにより海や船についての知識を共有することになり、海洋への理解を深める機会となったと考えられる。

また、製作にあたって「ザ・コンパス」の会員の方々の指導の評判がよかったこともあり、ものづくりへの興味も持ってもらえたことは望外のことであった。

【来館者の声】

- 本物の船を造るのは、大変だろうと感じた。
- 船の歴史を感じ、身近に感じた。
- 海が汚れていくのは、いやだと思った。
- もの作りは楽しいと感じ、夢中になれた。
- 家庭ではさせることができない、切ったり貼ったりする体験ができて、可能性が広がった。

■④特別展を観覧して神戸港をクルージングしよう！」

【開催日時】平成28年10月23日（日）13:15～14:45

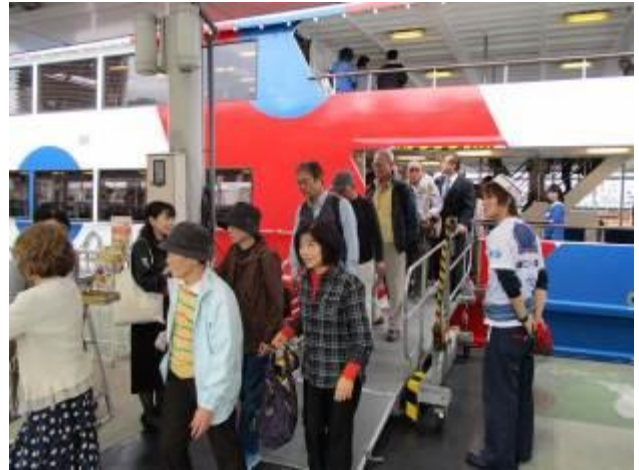
【開催場所】神戸港メリケン波止場周辺～神戸港沖

【参加者数】129人

【実施内容・目的】

- 特別展の舞台である兵庫津をめぐり、ほとんど面影を留めない展示紹介している場所や当時の面影に思いをはせる。
- 兵庫津の歴史を知り、現在の景観から過去の様子を知り、海や船をとおして、港湾都市のあり方を学ぶことで、地域の発展に海が深く関わってきたとことを知る機会とする。





これまでほとんどおこなわれていない海上から兵庫津の歴史的な景観や特徴を学ぶというイベントとした。クルージングコースは、運行会社と調整して、普段は近づくことができない場所を海上から眺め、海と都市との関係性などを再発見できるようにすることで、街中をウォークするよりも、江戸時代の景観や港湾について、今と昔をより比較できるようにした。これによって、兵庫津の現在の景観から過去の様子を知り、海や船をとおして、港湾都市のあり方を学ぶ機会となり、参加者からの評判も良く、地域の発展に海が深く関わってきたとことを知ることができたと考えられる。

【来館者の声】

- 経済や政治が海を通じて動くことを思い知らされた。有意義なイベントで感謝したい。
- 陸路だけでなく、海路の重要さをあらためて感じ、今までと異なった景色を見ることができた。
- 海をきれいに守り、世界に誇れる神戸にしたい。
- 海は、忘れられない大切な母親とも思えるうれしいもの。
- 船の上から歴史を感じるすることができた。
- 海は、物流など私たちの生活や日本の経済を支える大切な存在だと深く感じた。
- 神戸開港 150 年の節目の時期に改めて港や海の大切さを感じた。
- これまで意識して海から見ることがなかったので、新しい発見となった。
- 普段何気なく見ている海だが、我々の生活に密接に関連していると思った。

■⑤紙芝居「高田屋嘉兵衛物語」

【開催日時】平成28年10月8日(土)～12月4日(日)の会
期中の土・日曜日(11月5日除く 17回)
13:00～13:25

【開催場所】兵庫県立考古博物館メインホール

【参加者数】414人

【実施内容・目的】

- 淡路島出身で兵庫津の廻船船主として活躍、「菜の花の沖」で著名な高田屋嘉兵衛の一代記を、ひょうご考古楽倶楽部がオリジナルの紙芝居にして上演。
- 高田屋嘉兵衛の活躍や「ゴローニン事件」を通して外国との交流を楽しく親子・家族で学び、海外交流の歴史において海や船が重要な役割を果たすことを知る。





特別展の展示テーマとリンクさせて、淡路島出身で兵庫津に本拠を置いた高田屋嘉兵衛の事績を紙芝居をとおして紹介することで、兵庫津の歴史の理解をより深められるようにした。また、郷土の偉人としてクローズアップすることによって、海や船との関わりを説明するようにした。紙芝居という媒体をとおして、親子で語り合う姿も見受けられ、海や船の役割や外国との交流の歴史を学ぶ機会になったと考えられる。

【来館者の声】

- 海は、世界につながっていることを感じた。
- 海を大切にしたいと思った。
- 紙芝居と展覧会を見て、歴史がわかった。
- 船を守っていくことは、大事なことと思った。
- 海・流通・貿易など、これから日本がなすべきことは何かを考える機会となった。
- 船や海のことをもっと知りたいと感じた。

■◎特別展解説会

【開催日時】平成28年10月8日（土）～12月4日（日）の会期中の日曜日（9回） 13:30～14:00

【開催場所】兵庫県立考古博物館特別展示室

【参加者数】67人

【実施内容・目的】

- 展覧会の見所と個別資料の解説などをおこない、観覧者の海や船に興味を抱かせる。
- 海や船との関わりを学ぶことによって、我々の生活との関わりや交易や流通の歴史を知る機会とする。





日本の交通における水上交通の発展や日本と海外貿易や国内交易における船の役割をわかりやすく解説した。とくに古代から中世の船や港湾、海外交流、さらに交易の歴史について、テーマ展示を特別展の一環に組み込み、近世から近代・現代までの神戸について幅広く解説をおこなった。

これによって、世界的な視点で、海や船との関わりを学ぶことができ、古代から現代まで海や船が我々の生活と深く関わっていることを学び知る機会となったと考えられる。

【来館者の声】

- たいへん熱の込められた解説で、海や船の歴史を感じ、より理解が深まり、有意義な時間を過ごせた。
- 身近にある兵庫の港について、海を介しての人・モノのつながりを感じた。
- 解説を聞きながら100年後の海、兵庫県の瀬戸内海がどうなっているだろうかと、ふと思った。
- 船の様々な復元（模型を含む）を見ることができ、構造もわかった。
- 発掘資料をとおして、海や船に関わった人たちの暮らしぶりが学べた。

■⑦クイズラリー

【開催日時】平成28年10月8日（土）～12月4日の会期中の休館日を
除く毎日（50回）9：30～17：00

【開催場所】兵庫県立考古博物館 特別展示室及びテーマ展示室

【参加者数】566人

【実施内容・目的】

- 展覧会の内容をより楽しく学べるように、特別展会場・テーマ
展会場のいくつかの場所でクイズに答え、参加者に展覧会にち
なんだオリジナル景品（クリアファイル）を進呈する。
- 日本の発展について、物流や貿易や交易、船の役割や発達を学
び、海や船が果たした役割を学ぶ機会とする。





海外交流や貿易・交易の歴史を、学べる動機付けとなるような設問とするとともに、気軽に、手軽に会期中の観覧時間内なら、いつでも参加できるようにした。また、会場のどの展示部分を観覧すれば回答できるかを示した図面を参考にしながら、ラリーに参加できるようにした。このクイズラリーに参加することで、日本の発展に海や船が果たした役割などについて、楽しく学んでいただけだと思われる。

【来館者の声】

- 海と人間の生活との関わりの重要性を知ることができた。
- 先人たちの事をもっと知るべきかなと感じた。
- 子どもが、昔のことを学んで展示を楽しそうに見ていた。
- 昔から海は、海外の国々とのつながりなど、重要な役割を果たしていたのだなと思い、島国である日本だからこそ海を大切にしないといけないと感じた。
- いつも何気なく見ている海にも長い歴史があることを、今回の特別展で知り、海の見方が変わった。
- クイズラリーが楽しかった。

■⑧ときどきドキドキ体験「船に乗ろう！」

【開催日時】平成28年10月8日（土）～12月4日の会期中の
毎日曜日（9回）14：30～15：30

【開催場所】兵庫県立考古博物館 テーマ展示室

【参加者数】299人

【実施内容・目的】

- 特別展と連携し、より楽しく学べるように、学芸員が船の構造や海の航海などについて解説をする。たいへん人気のある体験で、集客効果がある。
- 海外交流や貿易・交易の歴史を通して、船が大きな役割を果たしていることを学ぶ機会とする。





特別展に連携させることで、海や船・港について、古代・中世・近世と時系列的に、より広範に深く学ぶことができるように、学芸員の解説を加えた。とくに小さな子供へは、船の特徴や操船方法などをクイズ形式で問いかけて、海や船への興味関心を高めるようにした。これにより、海洋国である我が国が、卑弥呼の時代から現代まで、いつの時代にあっても海や船が重要な役割を果たしてきたことを学んでもらえたと考えられる。

【来館者の声】

- 古代の船に乗って、いつの時代も海や船が大切だと思いました。
- 海や船の歴史を感じることができた。
- 港や海について、たいへん大切だと思い、親しみを感じるとともに、知識もつけることができた。
- 説明を聞いて、楽しく学ぶことができた。
- 古代の人々が、大海原に漕ぎ出た勇気を感じた。

【事業全体のまとめ】

海の学びミュージアムサポートを活用したことによって、通常ではおこなっていない会名表示や導線の看板を作成することで、展示そのものの導線やストーリー性をもたせることができた。

展覧会に関連した多彩なイベントを開催することができ、特に落語会や神戸港クルージングは、展示とリンクさせた演目や普通では見ることができない場所などを巡れるようにするなどの工夫・調整をしたことで人気を博した。

また、クイズラリーを日時限定ではなく毎日実施するとともにクリアファイルを進呈することで、より多くの観覧者に参加してもらえ、より効果があがった。

サポートの活用により観覧者には、展覧会の展示内容をより深く理解してもらえたのではないかと考えられる。またイベントへの参加者は、新たな知見を得るとともに体験をすることができたのではと思われる。特別展を観覧しイベントに参加した人たちにとって、通常の展覧会に比べて、より親しんでいただける特別展にすることができた。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 神戸海洋博物館	関連イベント③ペーパークラフトで「カーフェリーをつくろう！」での指導団体の紹介及び製作指導
2. 神戸大学海事博物館	貴重資料の貸付

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 産経新聞	播州歴史探訪 28.09.30
2. ラジオ関西「時間です！林編集長」	「わがまちひょうご」コーナー 28.10.06
3. 神戸新聞	兵庫津の歴史紹介 28.10.09
4. 県民だよりひょうご 神戸版	特別展 江戸時代の兵庫津 28年10月号
5. 文化教育新聞	特別展 江戸時代の兵庫津 28年10月

以上